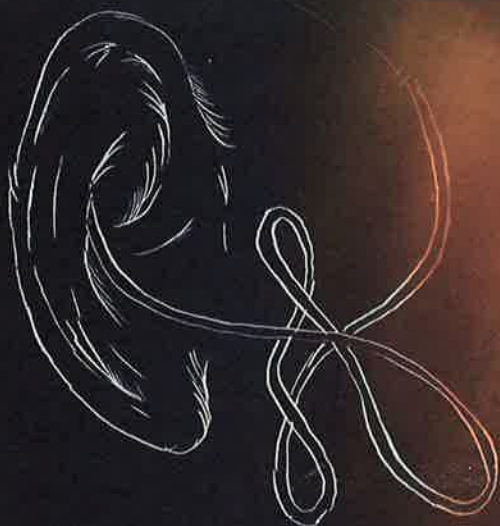




Only I can hear



「ずっと、ろうになりたかった
コーダの心の声」

私だけ聴こえる

監督 | 松井至

出演 | ASHLEY RYAN / NYLA ROBERTS / JESSICA WEIS / MJ / 那須英彰

製作 | テムジン/リトルネロフィルムズ プロデューサー | 平野まゆ コープロデューサー | PAUL CADIEUX

音楽 | テニスコーツ 共同監督・撮影 | HEATH COZENS 共同制作 | FILMOPTION INTERNATIONAL

編集 | HERBERT HUNGER 日本語字幕 | 安宅 典子 字幕制作 | パッソ・パッソ サウンドミキサー | 高梨智史

カラーグレーディング | 齋藤直彦 デザイン | サムワンスガーデン

協力 | TOKYODOCS 助成 | 文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業)独立行政法人日本芸術文化振興会

配給・宣伝 | 太秦 【2022】日本 | カラー | DCP | 5.1ch | 76分 | ©TEMJIN / RITORNELLO FILMS



耳の聴こえない親を持つ、耳の聴こえる子どもたち

音のない世界と聴こえる世界のあいだで居場所を探すドキュメンタリー



123404

Only I can hear

「コーダとして葛藤してきたから、
これからは《他者の靴を履く》こと
ができるんだと思う」

映画の主人公、ナイラに最後にインタビューした時に彼女が繰り返したことわざはコーダに惹かれ、その世界に触れようとした私の試みでもあった。

自分の形を変えて“他者の靴を履き”、誰かになってみることに。その困難と必要をコーダたちから教わった。

映画の上映そのものが<他者と生きる自分>をとらえ直す時間になったらと願います。

— 松井 至

Story

耳の聴こえないろうの両親から生まれた、耳の聴こえる子どもたち、コーダ(CODA: Children Of Deaf Adults)。家では手話で、外では口話で話す彼らは、学校に行けば“障害者の子”扱い、ろうからは「耳が聞こえるから」と距離を置かれる。コーダという言葉が生まれたアメリカでコーダ・コミュニティを取材した初めての長編ドキュメンタリーとなる本作は、15歳というアイデンティティ形成期の多感な時期を過ごすコーダの子どもたちの3年間を追う。聞こえる世界にもろうの世界にも居場所のない彼らは、一年に一度の“CODAサマーキャンプ”の時だけ、ありのままの自分を解放し無邪気な子供に戻る。

15歳。サマーキャンプは終わり、進路を決める大切な時期に入る。「私はろうになりたい」という深い欲望に突き動かされ、聴力に異変をきたすナイラ、自分を育ててくれ

たろうの母から離れて大学に行こうと葛藤するジュシカ、コーダである自分の人生を手話で物語ることで肯定し友達を作ろうとするMJ、さらに日本とアメリカを行き来し手話通訳士をするアシュリーが妊娠を機に「お腹の子がろうになるか聞こえる子になるか」という悩みを抱えながら出産に向かう――。

About this film

監督は“社会の周縁に生きる人々の知られざる物語”をテーマに映像作品を制作してきた松井至。本作は2016年TokyoDocsにて最優秀企画賞を受賞。その後取材を続け、2021年に北米最大のドキュメンタリー映画祭HotDocsに選出されるなど、現在世界各国で上映を行っている。音のない世界と聴こえる世界のあいだで居場所を失い、揺らぎながらも自らを語り、成長していく子どもたちの姿からコーダの知られざる物語を綴る。



5月28日、全国順次公開

全国共通特別鑑賞券 1,500円発売中! (一般当日1,800円(税込))

www.codamovie.jp

[シアター] イメージフォーラム

渋谷駅より徒歩8分
富益坂上がり青山通り表参道一つ目の信号右入る
03-5766-0114 www.imageforum.co.jp/theatre
[全席指定 / オンライン予約あり]

